

~~~~~  
 研 究  
 ~~~~~

母親の抑うつおよび情緒応答性と育児困難感との関連

小原 倫子¹⁾

〔論文要旨〕

本研究の目的は、母親の抑うつと育児困難感の関連に情緒応答性がどのように関連するのかについて検討することである。0歳児～1歳児を持つ母親118名を対象に、抑うつと育児困難感について質問紙調査を行った。また情緒応答性の把握について、日本版IFEEL Picturesを実施した。日本版IFEEL Picturesとは、30枚の乳児の表情写真を母親に呈示し、その写真を通して母親が乳児の感情をどう読み取るかという反応特徴から、母親の情緒応答性を把握するツールである。その結果、母親の抑うつは、育児困難感を高めることが示された。さらに、母親の抑うつは、母親による子どもの不安感情の読み取りを高めるものの、不安感情の読み取りは育児困難感を弱めることが示された。もともと情緒表出が制限されがちな抑うつ的な母親において、ネガティブな感情の中でも、とりわけ母親のサポートを必要とすると考えられる子どもの不安という感情を多く読み取ることのできる母親は、育児困難感が軽減される可能性が示唆された。

Key words : 抑うつ, 情緒応答性, 育児困難感, 母子相互作用

I. 問 題

母親の抑うつと育児困難感との関連の高さは、発達心理学やメンタルヘルスの視点から、多くの研究により明らかにされてきた¹⁾。しかし、抑うつ的な母親が育児を困難に感じる要因についての研究は、あまり見られない。本研究では、母親による子どもの情緒の読み取りを取り上げ、情緒の読み取りが母親の抑うつと育児困難感の関連に及ぼす影響について検討した。

川井他²⁾は、育児不安の本態として育児困難感を定義し、育児困難感を規定する要因として母親の不安・抑うつ傾向の影響が大きいことを明らかにした。このように母親の抑うつは育児困難感の要因であることが多くの研究により示されていた。

その一方でField et al³⁾は、抑うつ的な母親

における生後3か月の乳児との相互作用において、無関心、浸入的、良好という、3つのパターンを見出している。それぞれの母親は、抑うつや不安感の程度において大差ないにもかかわらず、子どもとの相互作用に違いが生じた。この要因としてField et al³⁾は、乳児の睡眠リズムや発達の程度に対する母親の評価の違いを指摘した。抑うつ的な母親が、子どもとの関係性をどのように評価するかが、その後の母親の育児行動や育児感情と関連すると考えられる。

以上の知見から、母親の抑うつと育児困難感の関連に、母親が子どもとの関係性をどのように捉えるかということが、影響を及ぼす要因であることが考えられる。このような母親と子どもとの関係性のひとつに情緒応答性がある。本研究における情緒応答性とは「母子相互作用における乳児の情緒表現への気づきと共感的な反

Relation of Mother's Depression and Emotional Availability on Her Childcare Difficulties
 Tomoko OBARA

[1707]

受付 05. 3. 9

1) 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 (臨床心理士)

採用 05. 6. 13

別刷請求先: 小原倫子 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町

Tel : 052-789-2658 Fax : 052-789-2651

応および母親の情緒表現の提供という一連の応答能力である」という定義に基づく⁴⁾。Emde & Sorce⁴⁾は、母親の情緒応答性は、母親の情緒的安定と報酬的な育児行動に関連があることを認めていた。

以上のことから母親と子どもとの関係性における母親の情緒応答性は、育児困難感と関連する要因であると考えられる。

このような母親と子どもの情緒応答性は、本来日常的な場面において実際に観察することが必要である。しかし、実際の観察では母親と子どもの関係性の断片的な把握となることも考えられる。本研究では、母親の情緒応答性を予測する指標として母親による子どもの感情の読み取り特徴を尺度として用いた。Emde & Sorce⁴⁾の理論から、母親が子どもの感情をどう読み取るかは情緒応答性の一側面であり、その後の子どもの応答とそれに対する母親の情緒表現の予測が可能であることが推察される。

そこで、本研究の目的は、母親による子どもの感情の読み取り特徴から母親の情緒応答性を把握し、母親の抑うつと育児困難感との関連に及ぼす影響を検討したことである。

母親が乳幼児の情緒をどのように読み取るかを具体的、経験的に把握するツールとしてIFEEL Pictures (Infant Facial Expression of Emotions from Looking at Pictures) が開発されている⁵⁾。IFEEL Pictures (以下IFP)は、前後の状況が明らかではない30枚の乳幼児の表情写真を通して、母親が乳幼児の情緒をどのように読み取るかを把握するツールである。それ故、日常的な場面における両者の関係性を実際に観察していない。しかし、前後の状況が明らかではない乳幼児の表情写真のみでも成人の情緒認知はほぼ一致していた⁶⁾。また育児中の女性では、写真から読み取った情緒と次に起こす行動との間に一定の関係があることが示されていた⁷⁾。したがって、IFPは母親による子どもの情緒の読み取りを簡便に把握することが可能であると考えられる。Butterfield⁸⁾は、IFPを用いて抑うつの母親の反応について検証した。それによると抑うつの母親は、ネガティブな情緒の読み取り反応が多い傾向にあることが示されていた。EmdeらのIFPをもとに、井上他⁹⁾は、

生後12か月の乳幼児の写真30枚で構成された日本版IFEEL Pictures (以下JIFP)を開発した。本研究では、母親による乳幼児の情緒の読み取りを予測する指標としてJIFPを使用した。

以上の知見から、本研究における仮説は、以下の通りである。1. 母親の抑うつと育児困難感は関連する。2. 母親の抑うつと育児困難感との関連に、母親による子どものネガティブな情緒の読み取りは関連する。

II. 方法

1. 対象者

0歳～1歳児の母親118名。母親の平均年齢は30歳。夫の平均年齢は32.8歳であった。子どもの性別は男児(50.5%)、女児(49.5%)であった。

2. 調査手続き

愛知県内にある保健所の3、4か月健診と1歳6か月健診および小児科の育児相談を受診した母親231名に受付で調査用紙を渡しその場で記入してもらい回収した。231名のうちJIFPへの調査依頼を承諾された母親120名にJIFPを実施した。うち2名は欠損値があり、分析対象から除外した。

3. 質問紙の構成

1) 母親の育児困難感の測定

川井他¹⁰⁾¹¹⁾による、育児支援質問紙ミレニアム版(0か月～11か月用)と(1歳児用)を用いた。質問紙(0か月～11か月用)の一部を表1に、質問紙(1歳児用)の一部を表2に示す。川井他¹⁰⁾¹¹⁾により作成された、育児困難感を評価する育児支援質問紙ミレニアム版は、0歳児の母親については、育児困難感(心配・困惑・不適格感)のみで成り立ち、1歳児の母親については、育児困難感(心配・困惑・不適格感)と育児困難感(ネガティブな情緒・攻撃衝動性)で成り立つとされている。本研究では、0歳児の母親と1歳児の母親の共通概念である育児困難感(不適格感)について分析を行った。

2) 母親の抑うつの測定

母親の抑うつを測定する尺度として、Zungのself-rating depression scale (SDS; Zung,

1965)の日本語版¹²⁾を使用した。うつの程度に関する10項目について4段階尺度で回答を求めた。

3) 母親の情緒応答性の把握

Emde et al⁵⁾によって作成されたIFPを、井上他⁹⁾が日本人向けに改良したJIFPを使用した。

a) JIFPの施行

30枚の乳幼児の写真はブック形式になっており、日本人の12か月の乳児たちのさまざまな表情の写真から構成されている。施行の際には写真を1枚ずつ母親に呈示して乳幼児の情緒を尋ねた。「ここに赤ちゃんの表情を撮った写真が30

枚あります。この写真の赤ちゃんがあらわしている、一番強くてはっきりしている情緒はどんなものでしょうか。心に最初に浮かんだ言葉をそのままできるだけ1つの単語で教えてください」と教示し、自由に回答してもらった。実施については保健所では発達相談の部屋、小児科では育児相談の部屋でそれぞれ個別に行われた。施行時間は1人につき約20～30分であった。

b) 回答のカテゴリ分類

平野¹³⁾による、JIFPのカテゴリ化に従って母親による自由回答を評定、分類した。本研究での回答者の回答の評定、分類については、JIFPの実施マニュアルに基づき調査者とJIFPの実施経験のある者2人で行い、一致率は93%であった。分類カテゴリが一致しなかった回答に関しては「日本IFEEL Pictures研究会(1998)」¹⁴⁾の回答を得て検討し、分類した。JIFPのカテゴリを表3に示す。平野他¹³⁾は、JIFPによる乳児の写真は、伝達される情緒が明瞭なものと、さまざまな情緒がブレンドされたあいまいなものに分類され、回答者独自の反応は、あいまいな写真にあらわれやすいことを示唆しており、伝達される情緒の特徴別に30枚の写真を分類している。本研究では、母親による情緒の読み取り特徴の意味をより明確に示すために、平野他¹³⁾の分類を基本として30枚の写真を、「快な写真」、「不快な写真」、「快・不快のあいまいな写真」に分類し、被験者独自の反応があらわれやすいとされる「快・不快のあいまいな写真」16枚(p3, p5, p6, p8, p9, p10, p12, p13, p14, p15, p18, p20, p23, p25, p26, p30)について分析を行った。

表1 育児支援質問紙ミレニアム版(0か月～11か月用)

1 育児の印象について
1 育児に自信が持てない
2 子どものことでどうしたらよいかわからない
3 子どものことは理解できている
4 どのようにしついたらよいかわからない
5 母親として不適格と感じる
6 子育てに困難を感じる
7 子どもをうまく育てている
8 育児についていろいろ心配なことがある
9 子どものことがわずらわしくてイライラする
10 子どもを虐待しているのではないかと思う
11 子どもがかわいと思えないことがある
12 子どもに八つ当たりしては、反省して落ち込む

表2 育児支援質問紙ミレニアム版(1歳児用)

1 育児の印象について
1 育児に自信が持てない
2 子どもをうまく育てている
3 子どものことでどうしたらよいかわからない
4 どのようにしついたらよいかわからない
5 育児についていろいろ心配なことがある
6 母親として不適格と感じる
7 子どものことは理解できている
8 子育てに困難を感じる

Ⅲ. 結 果

1) 分析に使用した変数の得点

表4に、SDS得点(self-rating depression scale)の平均値と標準偏差を示す。続いて表5にJIFPで使用される、快・不快のあいまいな写真16枚に対する、各カテゴリの回答数の平均値と標準偏差を示す。育児困難感(不適格感)については0歳児の母親と1歳児の母親で尺度項目が異なるため、Z得点を用いた。

表3 JIFPに対する回答を、感情別にカテゴリー分類するための、カテゴリー表

コード	カテゴリー	カテゴリーの定義	カテゴリー例
101	喜び	喜び, 安心, 満足等の快感情	おいしい, おもしろい, 満足
102	恥	照れ, 恥じらい, はにかみ等の感情	恥ずかしい, うふふ
103	疲れ	疲れ, 退屈, 失望等の感情	飽きた, がっかり, 憂うつ
104	思考	思考, 空想, もの思い等の状態	考えている, もの思い
105	怒り	怒りの感情	いや, いらいら, 拒否
106	悲哀	悲しさ, さびしさ, みじめさ等の感情	孤独, しょんぼり, 疎外感
107	眠い	眠気に関するもの	あくび, ぐっすり, 眠い
108	不安	不安, 緊張, 心配等の感情	心細い, 困惑, ためらう
109	不満	不満, いじけ, すねる等の感情	おもしろくない, ぐずる
110	自己主張	自己主張, 意志, 意欲などの気持ち	一生懸命, おすまし, 決意
111	恐怖	おそれ, 恐怖などの感情	怖い, おびえる
112	注意, 疑問, 驚き	注目, 疑問, 驚きなどの状態	関心, じっと見ている, 夢中
113	対象希求	特定の人を求める, 甘えなどの感情	愛情, だっこして, 待って
114	苦痛	苦痛など身体的, 生理的な不快感	痛い, 気持ち悪い, 不快
115	欲求	欲求, 切望など物質を求める気持ち	欲しい, 何かちょうだい
116	嫉妬	嫉妬, ねたみ, うらやみ等の感情	いいなあ, うらやましい
117	我慢	我慢, 忍耐などの感情	耐える, 歯をくいしばる
118	その他	上記カテゴリーに該当しない感情, 無感情	しらける, 見下す, 軽蔑
r	回答拒否	回答を拒否したもの	

表4 SDS得点の平均値 (SD)

0 ~ 1 歳児の母親 (N=118)	
	平均値(SD)
SDS	39.90 (7.89)

2) 分析に使用した変数間の関係

分析に使用した各変数の相関係数を算出し、変数間の関係を検討した。SDSと育児困難感との関係について分析した結果、SDSと育児困難感の相関は $r=0.561$ であり有意であった ($p<0.01$)。母親の抑うつが高いほど、育児困難感が高いという結果が示された。

次に、SDSと情緒の読み取りの関係について分析した結果、有意または有意傾向な相関があったのは、「快・不快のあいまいな写真」に対する「不安」($r=0.208, p<0.05$)と「恐怖」であった ($r=0.158, p<0.1$)。抑うつの高い

母親は、子どもの不安な情緒を読み取りやすく、また、子どもの恐怖という情緒を読み取りやすい傾向があるという結果が示された。続いて育児困難感と情緒の読み取りの関係について分析した結果、有意または有意傾向な相関があったのは「快・不快のあいまいな写真」に対する「苦痛」($r=-0.196, p<0.05$)と「怒り」($r=-0.159, p<0.1$)であった。育児困難感の低い母親は、子どもの苦痛な情緒を読み取りやすく、また怒りの情緒を読み取りやすい傾向があるという結果が示された。

3) 母親の抑うつと、育児困難感との関連に、母親による子どものネガティブな情緒の読み取りが及ぼす影響

母親の抑うつと育児困難感との関連に、母親によるネガティブな情緒の読み取りが及ぼす影響についての検討を行うために、共分散構造分

析によるパス解析を行った。想定した因果モデルは、母親の抑うつ→母親による子どものネガティブな情緒の読み取り→母親の育児困難感である。その際、母親の抑うつが母親の育児困難感に直接影響を与えるパスと母親による子どものネガティブな情緒の読み取りに影響を与え、さらに母親による子どものネガティブな情緒の読み取りが母親の育児困難感に影響を与えるパスを仮定した。

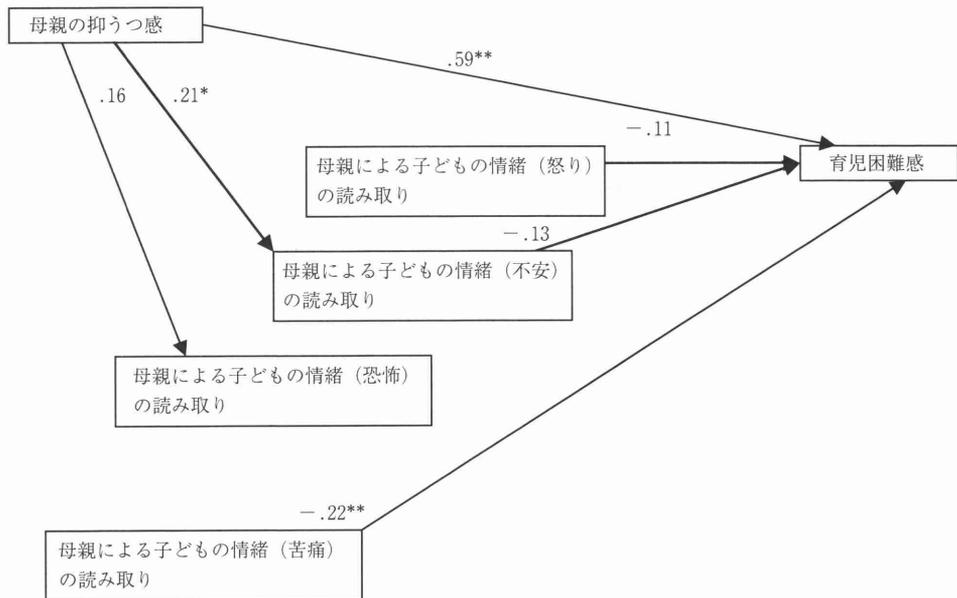
分析結果のパスダイアグラムを図1に示した。データとモデルの適合度については、 $\chi^2(6)=1.0$, GFI=0.997, AGFI=0.990で問題ないと判断した。図1に見る通り、母親の抑うつが高いほど育児困難感を感じやすいものの、子どもの不安の読み取りが高い場合には育児困難感が低くなる傾向が示された。

IV. 考 察

本研究では、母親の抑うつと育児困難感との関連に母親の情緒応答性が及ぼす影響について、実証的な検討を試みた。その結果、母親の抑うつは、育児困難感を高めることが示された。

表5 快・不快のあいまいな写真に対する各カテゴリの回答数の平均値 (SD)

0～1歳児の母親(N=118)	
	平均値(SD)
101	1.07(1.25)
102	0.10(0.31)
103	1.13(1.28)
104	0.64(0.93)
105	0.36(0.65)
106	0.43(0.65)
107	2.58(1.22)
108	0.47(0.62)
109	0.55(0.82)
110	0.43(0.69)
111	0.07(0.25)
112	5.25(2.03)
113	0.86(0.81)
114	0.23(0.50)
115	0.68(0.87)
116	0.11(0.37)
117	0.11(0.34)
118	0.74(1.22)
r	0.19(0.57)



$\chi^2(6)=1.0$, GFI=.997, AGFI=.990

図1 抑うつ感、子どもの感情の読み取り、育児困難感のパス・ダイアグラム。誤差変数の図示は省略した。また、有意または有意傾向である (**p<.01, *p<.05, 無印p<.1) パスのみ記載した。

さらに、母親の抑うつは、母親による子どもの不安感情の読み取りを高めるものの、不安感情の読み取りは育児困難感を弱めることが示された。

はじめに、母親の抑うつが育児困難感を高めるという結果が示されたが、これは従来の知見¹⁾²⁾とも一致していた。また、この結果は本研究の仮説1を支持した。

続いて、本研究によって、母親の抑うつが母親による子どもの不安感情の読み取りを媒介することで、育児困難感を弱めることが示された。つまり、抑うつ的な母親においても子どもの不安感情を読み取ることでできる母親は、育児困難感が軽減されることが示唆された。

Hart et al¹⁵⁾は、抑うつ的な母親は、子どもに対して情緒が制限されがちで、抑うつ的な母親を持つ乳児もまた情緒表出が少ないことを明らかにした。そうならば、抑うつ的な母親とその乳児は、お互いの情緒の読み取りがむずかしく、適切な応答がなされにくいと考えられる。それ故、抑うつ的な母親は育児を困難に捉える傾向があると考えられる。一方、Butterfield⁸⁾は、IFPを用い、抑うつ的な母親の反応について検証した。その結果から、抑うつ的な母親はネガティブな情緒の読み取り反応が多い傾向であった。小原¹⁶⁾は、JIFPを使用し、1歳児を持つ母親の情緒応答性と育児困難感の関連を検証した。その結果、子どもの快感情を多く読み取る母親の育児困難感が低かった。この結果について小原¹⁶⁾は、育児が困難な母親は、子どもの不快感情を読み取ることで自分自身にも心配やいらだちといった不快感情が生じやすく、またそのような不快感情のコントロールや、その後の試行錯誤的な応答がむずかしいために、子どもの不快感情の読み取りを回避しているのではないかと推測した。さらに、このような母親は、現実の育児場面においても、子どもの泣きやぐずりといった不快感情を回避してしまい、適切に関わることがむずかしいために、ネガティブな応答性、関係性が母親と子どもの間で生じるのではないだろうかと考察した。本研究の結果は、抑うつ的な母親についても同様な結果が得られたと考えられる。すなわち、もともと

情緒表出が制限されがちな抑うつ的な母親において、ネガティブな感情の中でも、とりわけ母親のサポートを必要とすると考えられる子どもの不安という感情を多く読み取る母親は、子どもの不安感情を受け止め、適切に応答する可能性の高い母親であることが推測される。それ故、抑うつ的な母親において子どもの不安感情を読み取ることでできる母親は、育児困難感が軽減されるのではないかと考えられる。

しかし、この点に関しては、推測の部分も多く、今後縦断的な調査を実施し、その結果もあわせて検討していく必要がある。また、JIFPの写真の内容および構成に対する妥当性は、さらなる検討が必要であると考えられる。

母親の抑うつと育児困難感が高い関連を持つことから、その心性に共通するものも多く、抑うつ的な母親の多くは、育児を困難に感じるのであることが推測される。しかし、抑うつ的な母親においても子どもの不安感情を読み取ることでできる母親は、育児困難感が軽減されることが示唆された。その理由として、母親の抑うつは、主に、パーソナリティに起因する母親要因であり、育児困難感は、母子相互作用要因であることが考えられる。すなわち、抑うつ的な母親の中でも、子どもとの関係性の中で、子どものネガティブな情緒を読み取ることが可能な母親は、内面に不安や疲労感を感じながらも育児困難感が低いことが考えられる。

この点については、実際の母子相互作用の検討も含めたより多くのデータに基づく検討が課題であろう。今後は、写真の特徴の分類や構成の吟味も含め、子どもの情緒を読み取った後の、母親の情緒の表出や育児行動を把握するツールとしてJIFPを発展させていくための検討が必要であろう。また、子どもへの柔軟な応答スキルが身につくように、育児が困難な母親に働きかけることが可能なツールとしての検討を重ねることで、子どもの健全な発達に寄与する方向性を検討していくことが重要と考える。

本研究の一部は第15回発達心理学会で発表した。

謝 辞

本論文の作成にあたり、貴重なご助言をいただき

ました, 名古屋大学氏家達夫先生に心より感謝致します。また, 本研究に快くご協力いただきましたお母様に心からの感謝とお子様の健やかな成長をお祈り申し上げます。

文 献

- 1) 佐藤達哉, 菅原ますみ, 戸田まり, 他. 育児に関連するストレスとその抑うつ重症度との関連. 心理学研究 1994; 64(6): 409-416.
- 2) 川井 尚, 庄司順一, 千賀悠子, 他. 育児不安に関する臨床的研究Ⅳ: 育児困難感のプロファイル評定試案. 日本子ども家庭総合研究所紀要 1998; 34: 93-111.
- 3) Field T, Diego M, Hernandez-Reif M, et al. Depressed mothers who are "good interaction" partners versus those who are withdrawn or intrusive. *Infant Behavior & Development*. 2003; 26: 238-252.
- 4) Emde, R.N, & Sorce, J.F (小此木啓吾, 監訳). 乳幼児からの報酬: 情緒応答性と母親参照機能. 乳幼児精神医学. 東京: 岩崎学術出版社 1988: 25-48.
- 5) Emde R.N, Osofsky J.D, Butterfield P.M, eds. The IFEEL Pictures: A New Instrument for Interpreting Emotions. Connecticut: International Universities Press Inc. 1993.
- 6) Emde R.N, Izard C., Huebner R., et al. Adult judgments of Infant Emotions: Replication studies within and across laboratories. *Infant Behavior and Development*. 1985; 8: 79-88.
- 7) Sorce J.F, Emde, R.N. The meaning of infant emotional expressions: regularities in caregiving responses in normal and down's syndrome infants. *Child Psychol Psychiat*. 1982; 23(2): 145-158.
- 8) Butterfield P.M. Responses to IFEEL Pictures in mothers at risk for child maltreatment. In Emde R.N, Osofsky J.D, Butterfield P.M, eds. The IFEEL Pictures: A New Instrument for Interpreting Emotions. Connecticut: International Universities Press Inc. 1993: 161-173.
- 9) 井上カーレン果子, 濱田庸子, 深津千賀子, 他. 乳児の写真から情緒を認知する能力の判定: Japanese I Feel Picture Test. 家族療法研究 1990; 7: 30-40.
- 10) 川井 尚, 庄司順一, 千賀悠子, 他. 育児不安のタイプとその臨床的研究Ⅵ: 子ども総研式・育児支援質問紙(試案)の臨床的有用性に関する研究. 日本子ども家庭総合研究所紀要 2000; 36: 117-139.
- 11) 川井 尚, 庄司順一, 千賀悠子, 他. 育児不安のタイプとその臨床的研究Ⅶ: 子ども総研式・育児支援質問紙(ミレニアム版)の手引きの作成. 日本子ども家庭総合研究所紀要 2001; 37: 159-180.
- 12) 福田和彦, 小林重雄. 自己評価式抑うつ性尺度の研究. 精神神経学雑誌 1973; 75(10): 673-679.
- 13) 平野直巳, 森さち子, 井上果子, 他. 日本版 IFEEL Pictures: 母親への施行結果からの特徴の検討. 心理臨床学研究 1997; 15: 144-151.
- 14) 日本 IFEEL Pictures 研究会. 日本版 IFEEL Pictures 実施マニュアル(未公刊). 1998.
- 15) Hart S, Jones N.A, Field T, et al. One-year-old infants of intrusive and withdrawn depressed mothers. *Child Psychiatry & Human Development*. 1999; 30(2): 238-252.
- 16) 小原倫子. 母親の情動共感性及び情緒応答性と育児困難感との関連. 発達心理学研究 2005; 16(1): 92-102.